

## 今季のマダコ漁，水温下がれば好漁期待！

### 1. マダコの生態と茨城県における漁獲量

年末から年明け2月頃まで、茨城沖は「たこつぼ漁」や「樽流し漁」などのマダコ漁のシーズンとなります。マダコは春から初夏に主に外房周辺で生まれ、黒潮から派生する北上暖水によって、三陸までの沿岸各地に分散します(図1)。茨城県沿岸では、定着型の「地ダコ」に加え、秋から冬にかけて三陸から産卵のために外房に南下回遊する「渡りダコ」を対象に、マダコ漁が営まれています。マダコ漁の好・不漁は、「渡りダコ」の来遊状況に強く影響を受けるため、茨城県の過去20年のマダコ漁獲量は、13~493トンと年による変動が大きくなっています。

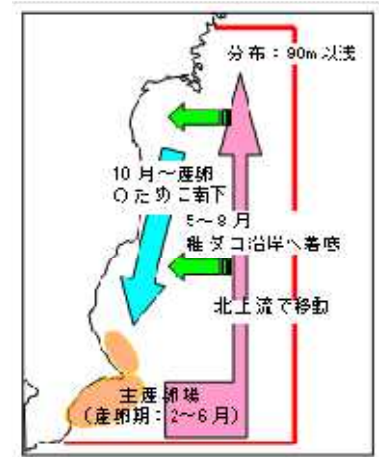


図1 常磐海域のマダコの生態

### 2. 昨年漁期の状況

常磐沖のマダコ漁は12~2月が主漁期で、年間漁獲量の8~9割ほどをこの時期に漁獲します。昨年(H28)主漁期の漁獲量は93トンで、過去20年の中では12番目と平常並みでした。(図2)。漁期前の予測は低水準の見込みでしたが、予測を若干上回りました。

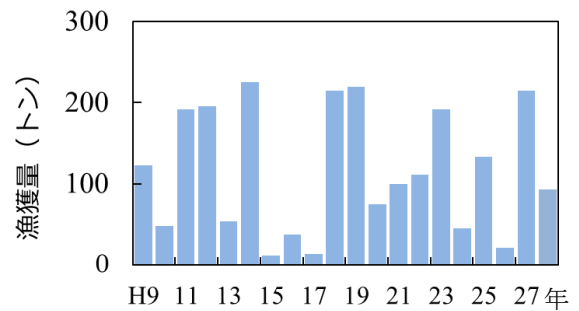


図2 マダコの漁獲量(12~2月)

### 3. 今季のマダコ漁の予測

「渡りダコ」は沿岸水温(那珂湊定地水温)が15℃前後になると水揚げが始まり、10~12℃になると水揚量が増加する傾向があります。今年の海水温の状況は12月に入ってから15℃前後で推移し、さらに沖合でも高い状況が続いており(図3)、たこつぼ漁の漁獲量は現在低調に推移しています。一方で宮城県や福島県(試験操業)では、記録的な好漁となっており(両県からの情報)、来遊元となる「渡りダコ」資源量は高水準とされます。また、12月に入り茨城県の沖合でも底曳網でまとまった量の水揚げがみられます。これらのことから、今季のマダコ漁は低調なスタートですが、来遊コースが漁場から大きく外れることがなければ今後漁獲量が増加していくことが期待でき、条件が揃えば豊漁の可能性も考えられますので、引き続き状況を注視していきます。漁業者の皆様にも、水産試験場ホームページ等で水温の低下状況、冷水の動きなどをご覧になり、操業の参考にしていただければ幸いです。

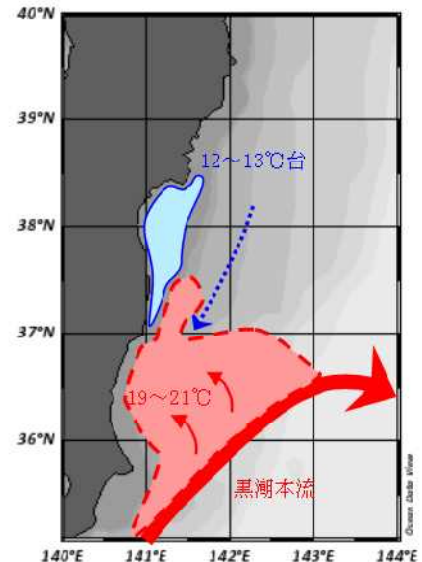


図3 海況の概要(12月)  
 (水産の窓28-No.37より)

(定着性資源部)

【次回予告】H29.12.26 発行の水産の窓は、「長期漁海況予報会議の結果」を予定しています